

# Optimal medical therapy (OMT)

佐賀大学 医学部 循環器内科 | 夏秋政浩

## はじめに

安定冠動脈疾患患者においては、至適薬物治療 (OMT) が早期侵襲的治療と比較し、同等の心血管イベント抑制効果を有することがISCHEMIA試験で示された(図1)<sup>1)</sup>。REVIVED-BCIS2試験では、左室機能低下を有する冠動脈疾患患者において、OMTがPCIと比較し、やはり同等の総死亡+心不全入院イベントの抑制効果を示した(図2)<sup>2)</sup>。いずれの試験においても、血行再建の有無に関わらず、OMTが行われており、至適薬物療法が冠動脈疾患患者の根幹となることは間違いない。

PCI vs OMTという対立の図式ではなく、OMTは循環器内科医、インターベンションナリストにとって最大の武器の一つであり、これを極めることが予後改善において不可欠と考えられる。

CVIT2023 OMTセッションでは、抗血栓療法、脂質低下療法、虚血性心不全治療をはじめとしたOMTを深掘りするセッションを企画した。ISCHEMIA試験、REVIVED-BCIS2試験の結果をふりかえり、これからの至適薬物治療とPCIの真価について議論したい。

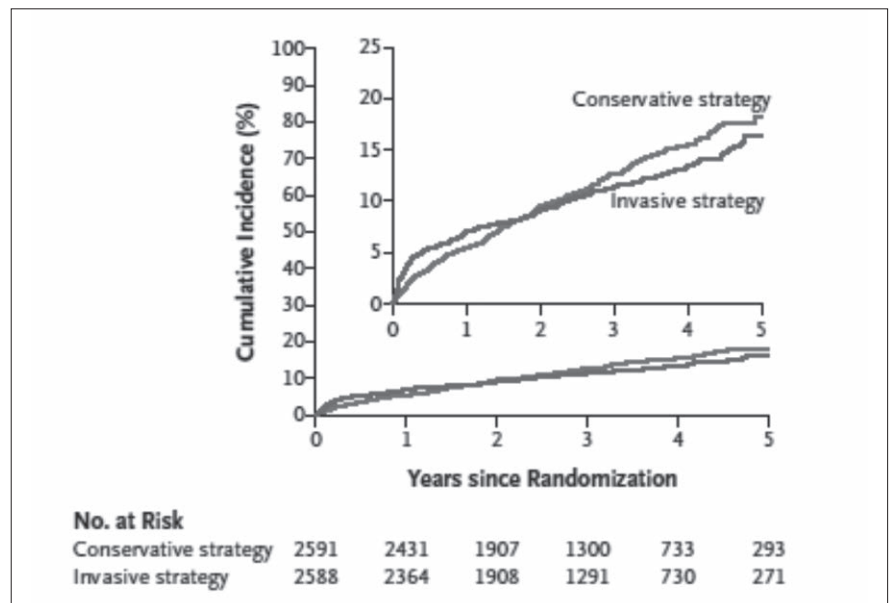


図1 心血管イベントの累積発生率<sup>1)</sup>

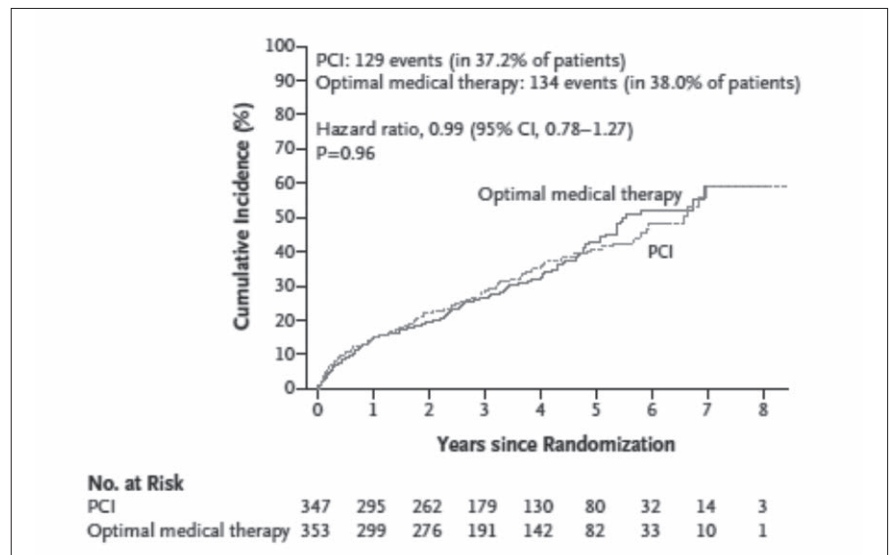


図2 死亡・心不全入院の累積発生率<sup>2)</sup>